



浜家連 ニュース8月号

第228号

2019年 8月1日発行

発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町 1752 番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階
電話 045(548)4816・FAX 045(548)4836
URL <http://hamakaren.jp/>

「開かれた対話」オープンダイアログとの出会い 副理事長 倉澤 政江

2013年秋、「開かれた対話」というドキュメンタリー映画を見ました。はじめはいまひとつ理解できませんでしたが、ワクワクしたことは覚えています。それがオープンダイアログとの出会いです。

オープンダイアログ(以下 OD)とは1980年代にフィンランドの西ラップランド地方のトルニア市にあるケロブダス病院のスタッフによってはじめられた対話をベースにしたアプローチであり、地域の精神保健システムです。依頼があれば24時間以内にチームで訪問し、何回でも対話を重ね薬も必要最小限であり、再発率も低いといえます。

日本でもその後、オープンダイアログ・ネットワークジャパン(ODNJP)ができ、広がりをみせています。そのような中、5月の「こんぼ亭」に齊藤環さん(筑波大・ODNJP 共同代表)と向谷地生良さん(べてるの家・ODNJP 運営委員)がお客様として招かれ「オープンダイアログが教えてくれるとっても大切なこと」と題して伊藤順一郎さん(しっぽふぁーれ院長)を交え、話が繰り広げられました。

申し込みの切前に満員御礼となり、このテーマ(出演者)の関心の高さが伺えます。トークリレーから心に残ったことを書きます。

後半のトークライブでは、「OD を身近な場でチャレンジしてほしい、今、生きている場が対話の場となるように、まずはやってほしい」と勧められました。

※オープンダイアログ対話実践のガイドラインはODNJPのHPよりダウンロードできます。

○齊藤環さん ODはどこでも出来、ライセンスはいらない。手法だけではなく背景をささえる思想も含まれたものである。ひきこもり支援にODは有効である。親子間の対話が議論や説得になりがちであるが、これは当事者の力を奪ってしまう。ODの対話の目的は「変えること」「治すこと」「(何かを)決定すること」ではなく、対話を続け、広げ、深めることを目指している。あなたとわたしの世界はどれほど違っているかを掘り下げていくことにある。

○向谷地生良さん べてるとODは同時期に始まっているし、似ているところが多い、「治りたいと思っているうちは治らない」と「べてる。」では言っている。人の回復とは何なのか、たとえ症状が良くなっても症状とはまた違う苦勞がある。

「対話とは母乳や空気のようなもの(ヤーコ・セックラ)」との話からべてるの名言「三度の飯よりミーティング」を思い出した。

○伊藤順一郎さん ACTにODをとり入れようと試みている。ACTで大切にしていることは○リカバリー○ストレングス(強み・長所)に注目し育む○可能な限り(強制)入院を回避する。対話の空間が仕事の場の中にあることは安心につながっている、人と人とのつながりの中に留まり続けることは安心感、安全保障感を持つ、これは危機の時にこそ必要である。



フィンランドへ OD の視察研修に行った方が、現地で病気を経験した本人にインタビューした際に聞いた「わたしは一度も患者扱いされたことがない」という驚きの言葉を紹介してくれました。その言葉から病人でも患者でもない、ひとりの人に対する深い眼差しや尊敬の念を感じ、それが OD の背景にある思想なのではないかと思いました。

そして映画の中の心理士が語る

「我々は民主的なシステムを目指し、患者が自分の治療法に意見できて、我々が人々と同じレベルにいるよう心がけ、そして常に彼らと平等であるよう努めます」にも重なりました。私たちはどのような眼差しで病気の人を見るのか、OD の魅力の一端に触れたような気がします。日本でも OD のような精神保健システムが広がることを望みます。
(※こんぼ亭 (5月) の詳細を知りたい方は「コンボ」より DVD が出る予定です。

浜家連の動き



浜家連ニュース7月号でお知らせしました通り、6月は各政党の横浜市議員団へ要望書の提出と懇談会を行いました。その報告が届いております。



共産党横浜市議員団との懇談会に参加して

なぎさ会 杉 美代子

6月17日午前10時より市会棟での共産党市議員さんたちと浜家連役員・会員との懇談に参加しました（浜家連からの参加者14名）。

初めに双方参加者の自己紹介とひと言ずつ。その後来年度（令和2年度）予算への要望書の説明が浜家連大羽副理事長からなされました。

最重点要望項目から、厚労省の「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築推進」事業を確認し、精神保健医療福祉体制の構築具体化、「日中サービス支援型共同生活援助による常時支援付きグループホームの整備」、「危機にある精神障害者への24時間対応訪問介入の施策化」、「医療費の助成拡大」（精神障害者2級まで助成拡大を）などが特に強調されました。

細かい内容については他の党の報告と重複す

るので省略しますが、懇談の時間も1時間以上取って下さり、議員さんたちからも質問がいくつか出されて、丁寧に向き合って下さっていると感じました。

当日午後の公明党との懇談にも参加したのですが、公明党は16名中女性議員がわずか1名で、部屋を埋める黒々とした背広姿にちょっと違和感を持ちました。共産党は9名中女性議員が5名で、浜家連の総会に来てくださった方のお顔も。

これまで自民党との懇談には何回か参加しましたが、今回も含めて、最近のやりきれない事件の数々を教訓に、精神疾患を抱える当事者と家族への支援を、政治に関わる方たちにもっともっと真剣に考えて欲しいと痛切に思います。

公明党横浜市議員団との懇談会に出席して

あおば会 林 秀光

公明党横浜市議員団との懇談会が、6月17日（月）13時から13時45分まで、市庁舎会議棟4階大会議室で行なわれました。浜家連からは宮川理事長以下19名が、公明党からは竹内団長

（神奈川区）以下16名の議員が出席しました。

まず、大羽副理事長は次の3点を訴えました。

本年は「令和2年度予算編成に対する要望書」について、大羽・倉澤の両副理事長が、最重点項目を中心に、要望事項をしぼって説明しました。

- (1) 国が長期的な方針として打ち出した「精神障害にも対応する地域包括ケアシステムの構築」について、その事業内容を具体化して下さい。特に①アウトリーチ事業②入院中の精神障害者の地域移行に係る事業について、着実な実施を強く要望しました。

- (2) 重度の精神障害向けの24時間支援付きのグループホームの設置について、国の報酬改定による「日中サービス支援型」グループホーム制度を利用することで、その設置は可能であると主張しました。
- (3) 危機にある精神障害者について、本人や家族だけでは問題は解決できません。第三者の訪問介入が必要です。危機にある精神障害者への24時間対応の多職種訪問介入事業の施策化を検討して下さい。

次に倉澤副理事長が、重度精神障害者医療費助成の拡大について、現在、本市の重度精神障害者医療費の助成は、1級の通院のみが適用されているに過ぎない。これを拡大して、1級の入院及び2級の通院・入院にも適用すべきだあると訴えました。

県内では、相模原市・鎌倉市など4市及び大磯町・二宮町の2町が精神障害者2級までを重度障害者医療助成の対象としている。この事実からして、本市において実現不可能とは思えない。医療費助成の拡大を真摯に検討して下さいと訴えました。

参加者からも多くの発言がありました。代表的な発言として

- (1) 区福祉保健センターの主催する家族教室は開催しない区もあり、各区によって実施回数がまちまちである。先進的な区に合わせて、家族教室による家族支援を強化して下さい。
- (2) 区福祉保健センターのMSWを増員して、できるだけ直近にいていねいな相談が受けられるようにして下さい。
- (3) 福祉の支援現場では、福祉人材の不足は深刻な問題です。処遇改善等、人材確保策の抜本的対策を検討して下さい。

最後に議員との質応答の中で、「地域包括ケアシステム」について質問があり、現在、保健・医療・福祉関係者による協議の場を設け、検討を始めたところである旨を回答し、強い支援を要望しました。

自民党横浜市議員団との懇談会に出席して

あじさいの会 音田園恵

梅雨の晴れ間で、暑いなかにも風は心地よく、6月19日(水)15:00~15:40市議会会議室にて懇談会が、時間通りはじまりました。双方が向かい合って座り、浜家連からは、17名 自民党・無所属の会から36名(最後列には国会議員の秘書の方々)が出席。要望書の説明と質疑応答と40分間はあっという間に終わってしまった感じがしました。

はじめに宮川理事長の要望に対して「時間をとっていただいてありがとうございます」の言葉で始まり 大羽副理事長が、川崎のひきこもり事件にも触れ、要望書のあらかたの説明をし、次に井汲副理事長より要望の中から「医療費の助成拡大」について、市の重度障害者医療費助成は精神障害

者1級の通院のみにしか適応されていない。入院には認められていない。神奈川県内では相模原市など6市町が障害者2級までも助成の対象としている。実現不可能ではないと思う。また長く薬を飲んでいると内臓に負担がかかり内科を受診することもある。これは、3割負担だ。医療費助成について真摯に検討していただきたいなどの発言がありました。

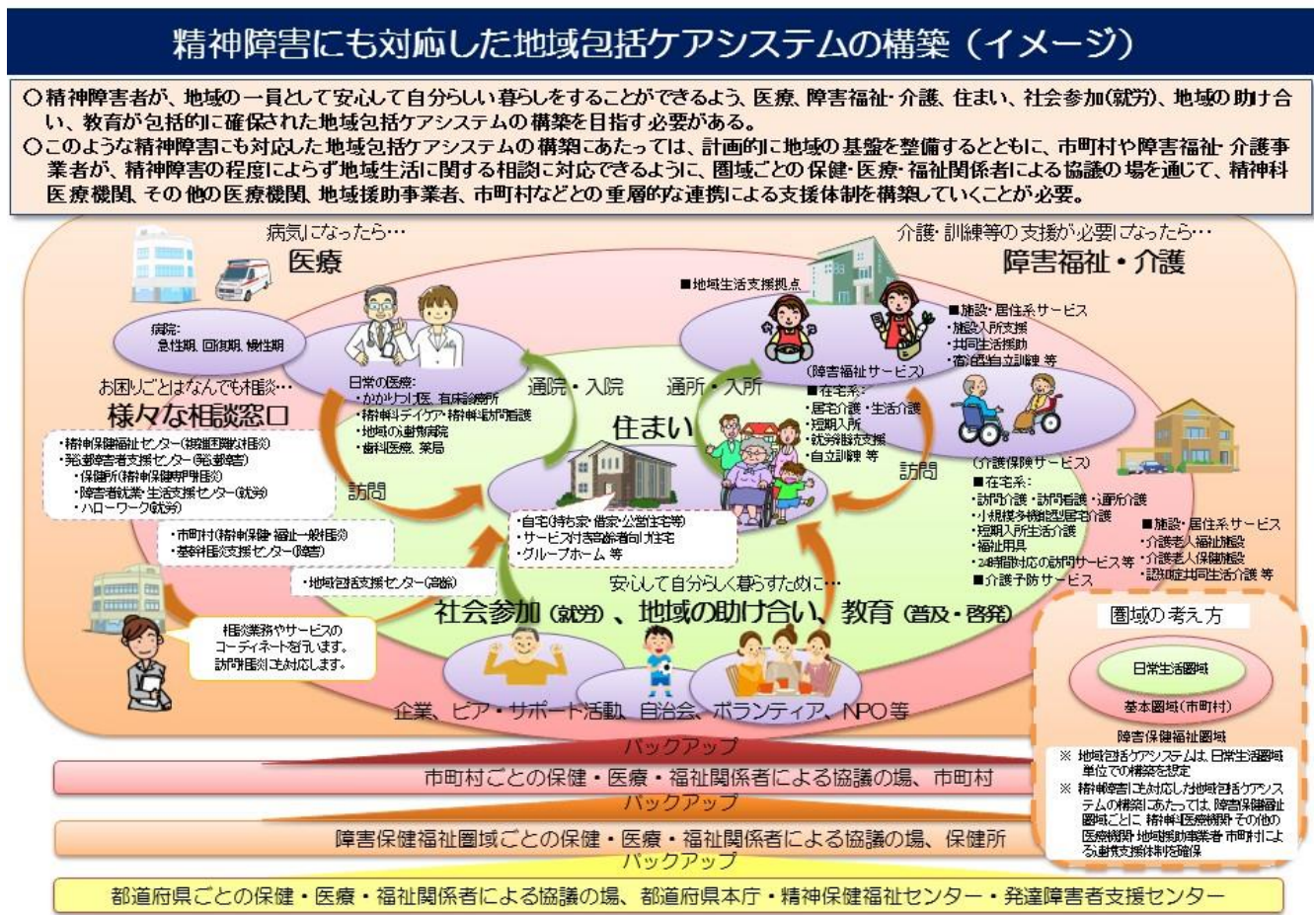
質疑応答の時間になり、2級の精神障害者を事務所で働いてもらった経験のある議員さんは、仲間とラインでつながる彼の様子を見て、当事者同士のつながりの大切さを話してくださいました。また彼が市の職員募集に応募してほしいと希望を話してくださいました。他に弁護士資格をお持ち

ちの議員さんから「暴れる当事者をどうやって病院に運ぶか。引きこもっている人をどのように医療につなげるか」の質問がありました。松本さんが 8050 問題の実例を挙げて質問に答える形で発言しました。

分厚いバインダーを机の上に広げ、不思議と皆さん議員さんの顔で、まっすぐこちら（浜家連団）を見つめて話を聞いてくださいました。少しでも前進するよう粘り強く要望を発信していくことが大切と思いました。

※要望項目作成時、基本的な資料の一つとなりました「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」のイメージ図を掲載しました。（厚生労働省 ホームページより）

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムのイメージ図



家族による家族学習会担当者研修会 in 横浜が開催されました。

本年度も家族学習会が、さかえ会、たちばな会、若杉会、あじさいの会の4単会で実施される予定ですが、これに先立ち実施単会の方々を始めその他の方の参加者を含め、30名が参加して家族学習会担当者研修会 in 横浜が開催されました。その報告が届いています。

家族による家族学習会担当者研修会 in 横浜が開催 たちばな会 稲垣 宇一郎

7月1日(月)10時30分から16時の間、濱家連主催の「家族による家族学習会担当者研修会 in 横浜」が横浜ラポール2階大会議室で開催されました。研修会には2019年度に家族学習会を実施する4単会の担当者、及び来年以降の学習会を

討したいと考える単会及び関心のある会員の方々、更に平塚市の家族会で家族学習会を長年展開している「湘南あゆみ会」の方々、精神疾患のある親に育てられた子どもの会「こどもぴあ」の方々が研修生として参加されました。また横浜市健康福祉局障害福祉課の方がオブザーバーとしてご参加され、総勢30名が熱心に受講されました。

研修生は午前中が座学で、家族学習会の目的・流れ・担当者としての姿勢や心構え等を学び、午後はテキストを使用して実際の家族学習会形式でリーダー及びコリーダーの役を体験しました。

研修を受けられた方からは、「勉強になった！」「午後の体験では難しさも感じたが、大変参考になった。」との声が聞こえました。

また、横浜以外の地域の家族会の方々とこどもの立場の方々と「家族学習会の実施」という共通の目的で交流できたことは、有意義な研修会であったと感じました。

この研修会が終わり、家族学習会を実施する単会はこれから本格的に準備に入ります。

今年も参加者の方々と新しい出会いが待っています。

研修生の皆様、期待を胸に会場を後にしました。

第1回浜家連研修会が開催されました

精神疾患の家族をもって・・・さまざまな家族たち

～子どもの立場から～

白梅会 北川はるみ

- ・日 時 2019年6月21日(金) 13:30~16:00
- ・場 所 横浜ラポール2階 大会議室
- ・参加者 74名

今年度第1回の浜家連研修会の講師は、横山恵子先生(埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科教授)、坂本拓氏(こどもぴあ代表)でした。家族学習会のプログラムの作成にも関わっている横山先生からは家族は自分の生活や人生を犠牲にし、日常的なケアをしてストレスを感じ疲弊するとともに、本人の回復を遅らせている・家族の6割は精神的な健康状態が悪い傾向にある。(全国精神保健福祉会連合会、2018より)、

- ・偏見(ステイグマ)は社会<医療者<家族<本人とだんだんと強くなる。
- ・家族が適切な支援を受け、仲間と出会い、自信を取り戻したとき、家族のリカバリーが始まり、専門家のパートナーにもなる。専門家との関係は、対等な支えあう関係。
- ・きょうだいの立場

親亡き後の世話を支援者からも兄弟に期待されるが、優先すべきは自分の人生。

精神障がい者の「兄弟姉妹の会」設立(1975年~)

- ・配偶者の立場

相談先がなく、周囲から理解されず、孤立。離婚、失職での経済的困窮、生活上過重負担。

子どもへの影響を心配。精神に障害がある人の配偶者・パートナーの支援を考える会(以下、配偶者の会) 設立2016年~

- ・子どもの立場

・家族のこころの病気を子どもに伝える絵本(ゆまに書房/プルスアルハ著)

・精神障がいのある親に育てられた子どもの語り(横山恵子/蔭山正子著)

精神疾患の親をもつ子どもの会(愛称:こどもぴあ) 設立(2018年1月21日)

ホームページ:こどもぴあ <https://kodomoftf.amebaownd.com/>



*坂本拓氏の話

現在は生活支援センターの職員をしている。中学生の時に母親がうつ病、パニック障害を発症した。明るくて元気な母から突然、繊細な母になってしまい戸惑う。母の不安は経済的な事が中心だった。私は主に感情面でのサポートをした。一晩中眠らず母の話を聞き、翌日学校に行くこともよくあった。母が離婚した時に「自由な人生を歩んでほしい」と言われ別居して初めて共依存だったと気が付いた。振り返ってみると、誰にも相談できなかった、子ども（家族）が何かを決断するのは荷が重い。現在、支援者となってみると、つくづく家族は家族、支援者にはなれないと思う。家族もつらいときは逃げて。仲間と出会い、苦手なことや弱みを人に見せられるようになった。家族会、こどもびあ、配偶者の会が互いにつながっていきたい。

*質問に答えて

横山先生、親が頑張れば頑張るほど、リカバリーにつながらない事もある。本人と距離を取ることも大切。

坂本氏、家族が勉強するのはとても良いけれど力をおろした家族になって、支援者を使って下さい。そうしないと、支援者は育たないから。親亡き後は、他のきょうだいではなく地域に委ねてください。

◆イベントのお知らせ◆

§平成31年度 第3回 浜家連研修会§

「メリデン版訪問家族支援とは」

～本人と家族まるごと支援をすると・・・変化が生まれます～

日時 2019年9月20日（金）午後1時半～午後4時（開場午後1時）

場所 横浜ラポール 2階 大会議室

講師 篠崎 安志 氏

（横浜市青葉区福祉保健センター 高齢・障害支援課）

松井 洋子 氏

（訪問看護ステーション みのり横浜）

§Bブロックフォーラム§

こころの扉をいま開こう

～伝える 伝わる 私たちのこと～

日時 9月14日（土）13:00～16:00（12:20開場）

会場 テアトルフォンテ

内容 1部 笑いヨガ

2部 生きづらさを抱えた人からのメッセージ

§Cブロックフォーラム§

こころの病と家族・支援者の対応

日時 9月28日（土）13:30～16:00（13:00開場）

会場 横浜市健康福祉総合センター 4階ホール

内容 1部 演劇 ワークショップ発表「てがみ」

2部 講演「こころの病と支援者の対応」

【編集後記】はやぶさ2探査機が小惑星リュウグウへ二度目のタッチダウンに成功した。リュウグウの地下の土壌を調べることによって、「生命誕生の謎がわかるかも知れない」という。このミッションを成功させた技術の高さに驚嘆すると共に拍手を送りたい。と同時にはやぶさ2の地球への帰還が今から待ち遠しい。 （事務局 中居）

◆8月10日（土）～8月18日（日）は浜家連の夏休みとなります。